

3:7 それから、イエスは弟子たちとともに湖のほうに退かれた。すると、ガリラヤから出て来た大ぜいの人々がついて行った。また、ユダヤから、 3:8 エルサレムから、イドマヤから、ヨルダンの川向こうやツロ、シドンあたりから、大ぜいの人々が、イエスの行っておられることを聞いて、みもとにやって来た。 3:9 イエスは、大ぜいの人なので、押し寄せて来ないように、ご自分のために小舟を用意しておくように弟子たちに言いつけられた。 3:10 それは、多くの人をいやされたので、病気に悩む人たちがみな、イエスにさわろうとして、みもとに押しかけて来たからである。 3:11 また、汚れた霊どもが、イエスを見ると、みもとにひれ伏し、「あなたこそ神の子です」と叫ぶのであった。 3:12 イエスは、ご自身のことを知らせないようにと、きびしく彼らを戒められた。 3:13 さて、イエスは山に登り、ご自身のお望みになる者たちを呼び寄せられたので、彼らはみもとに来た。 3:14 そこでイエスは十二弟子を任命された。それは、彼らを身近に置き、また彼らを遣わして福音を宣べさせ、 3:15 悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。 3:16 こうして、イエスは十二弟子を任命された。そして、シモンにはペテロという名をつけ、 3:17 ゼベダイの子ヤコブとヤコブの兄弟ヨハネ、このふたりにはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつけられた。 3:18 次に、アンデレ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、タダイ、熱心党员シモン、 3:19 イスカリオテ・ユダ。このユダが、イエスを裏切ったのである。 3:20 イエスが家に戻られると、また大ぜいの人が集まって来たので、みなは食事する暇もなかった。 3:21 イエスの身内の者たちが聞いて、イエスを連れ戻しに出て来た。「気が狂ったのだ」と言う人たちがいたからである。 3:22 また、エルサレムから下って来た律法学者たちも、「彼は、ベルゼブルに取りつかれている」と言い、「悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出しているのだ」とも言った。 3:23 そこでイエスは彼らをそばに呼んで、たとえによって話された。「サタンがどうしてサタンを追い出せましょう。 3:24 もし国が内部で分裂したら、その国は立ち行きません。 3:25 また、家が内輪もめをしたら、家は立ち行きません。 3:26 サタンも、もし内輪の争いが起こって分裂していれば、立ち行くことができないで滅びます。 3:27 確かに、強い人の家に押し入って家財を略奪するには、まずその強い人を縛り上げなければなりません。そのあとでその家を略奪できるのです。 3:28 まことに、あなたがたに告げます。人はその犯すどんな罪も赦していただけます。また、神をけがすことを言っても、それはみな赦していただけます。 3:29 しかし、聖霊をけがす者はだれでも、永遠に赦されず、とこしえの罪に定められます。」 3:30 このように言われたのは、彼らが、「イエスは、汚れた霊につかれている」と言っていたからである。 3:31 さて、イエスの母と兄弟たちが来て、外に立っていて、人をやり、イエスと呼ばせた。 3:32 大ぜいの人々がイエスを囲んですわっていたが、「ご覧なさい。あなたのお母さんと兄弟たちが、外であなたをたずねています」と言った。 3:33 すると、イエスは彼らに答えて言われた。「わたしの母とはだれのことですか。また、兄弟たちとはだれのことですか。」 3:34 そして、自分の回りにすわっている人たちを見回して言われた。「ご覧なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。 3:35 神のみこころを行う人はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。」

## 導入

マルコ 3 章 7 節は、マルコの福音書における新しい場面の始まりです。

ここから 10 章までは、イエスが弟子たちを教えられたことに焦点が定められています。

イエスはもう 1 章 16 節から 3 章 6 節のような一般大衆に向けた働きをなさいません。

イエスは弟子を教えることに重きを置いておられます。

群衆はイエスの後を追ってやってきますが、イエスがその人たちを優先なさることはもうありません。

今日の個所を 4 つに分けてお話していきましょう。

### 1. イエスはすべてのイスラエル人の主である。(3 : 7-12)

イエスは、「会堂」を去られたので、屋外で教えなくてはならなくなりました。

人々はあらゆる場所から集まってきました。エルサレムから 160 キロの道のりをやってきた人もいました。南方エドムにあるイドマヤという古い町から来た人もいました。

ツロやシドンのような外国からやって来る人もいました。これらの町は、ガリラヤからは北西の地中海沿岸の町です。

9 節には、人々がイエスに押し寄せないように小舟を用意する必要があったとあります。イエスの後をついてきた人たちはずいぶんな数だったのでしょう。

10-11 節を読むと、イエスは相当な人気者のようです。

イエスは多くの人々を癒し、悪霊もイエスの言うことを聞きました。

霊的なニーズではなく、目に見えるニーズを満たしてもらうために人々が集まっていたのは明らかです。

#### 適用

私たちはイエスから何を徳たいと願っているのでしょうか。

2000 年経っても人は同じです。

今も多くの人々が自分のニーズを満たしてもらうためにイエスを受け入れますが、必ずしも問題の核心に触れられることを望みません。その問題の核心とは、人の心の問題です。

何よりも大切なことは、私たちが御子イエスをとおして罪を赦され、神との正しい関係を回復してそのうちを歩むことです。

イエスから何を徳られるかが大事なわけではありません。肝心なのは、イエスをどういうお方として信じるかです。

私たちは自問しなければなりません。イエスはこれまであなたのために何をしてくださったでしょう。

10 節は、イエスが多くの人々を癒され、さらに多くの人々が癒しを求めてイエスのもとに押しかけたと語ります。

11 節は、悪霊さえイエスが誰かわかっていたと語ります。

しかし、イエスは悪霊を黙らせました。

イエスは幾度となく、ご自身の正体について誰にも言わないようにと悪霊や弟子たちにおっしゃいました。

それにはいくつかの理由があると思いますが、おもな理由は、イエスが王なるメシヤになってくださると当時の人々が勘違いしないためだったのではないかと思います。

ユダヤ民族主義の立場でメシヤをとらえてしまうからです。

例えば、ローマ帝国の支配からユダヤ人を解放してくれる王や支配者が来るという考えです。

ですから、イエスがメシヤであるという宣言がなされる前に、メシヤが来られることの霊的な意味を人々がちゃんと理解する必要があったのです。

そうでないと、革命が起こることになるからです。

#### 適用

聖書全体が描くイエスの全体像を理解する必要があります。

それは、「すべての罪から救う救い主」です。どんな願いであれ、私たちの欲望を満たしてくれる人ではありません。

イエスがどういうお方で、なんのために来られたのかをまったく見過ごしてしまう可能性もあります。

残念ながら、今日、違った福音を教える人がたくさんいます。

これらはよく「繁栄の福音」と呼ばれます。

繁栄の福音の影響で、健康や富を得る権利が自分たちにはあると多くのクリスチャンが思っています。

聖書個所の背景を無視し、本来の意味を捻じ曲げてみことばが引用されます。

繁栄の福音の誤りをすべて挙げる時間は今日はありませんが、その教えのひとつが現在の多くの教会に入り込んできています。

例えば、外部から講師がやってきて、特定の団体への献金を募ります。

そのときに、「皆さんがささげた献金は、神が 10 倍にして返してくださいます」などと言って献金を求めます。

すると、クリスチャンは神から金銭的な見返りを期待してささげるのです。

ささげればイエスが 100 倍にして返してくださるという根拠として、マルコ 10 : 30 の「100 倍を受けない者はない」というみことばを利用します。

グロリア・コーブランドは 2012 年に出版した著書「繁栄は神の御心」で、10 ドル献金すれば

1000 ドル与えられ、1000 ドル献金すれば、10 万ドル与えられます、と記しました。

人々は、お金持ちになれると期待して、コーブランド氏の団体に献金しました。

しかし、お金持ちになったのはコーブランド氏の団体だけでした。

自分の団体や個人のためにお金を集めようとするクリスチャンの間に、このような偽りの教えが浸透しています。

これは、イエスが教えられた福音ではありません。

私たちが什一献金に加えて、神の働きに献金するときは、そのお金が本当に神の働きのために用いられているかどうか確認する必要があります。

神の働きとは、まず主イエス・キリストの福音を提示することです。もしあなたが、クリスチャンだから健康で裕福になる権利があると思っているなら、病気になったり貧しくなったりしたらがっかりするでしょう。クリスチャンにとっては、キリストにある立場が何よりも素晴らしいものなのです。お金がなくても健康でなくても、キリストにある立場という霊的な益を失うことは決してありません。マタイ 6:33 には、「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」とあります。つまり、私たちが神の福音と神の神聖さに集中するなら、神が私たちの必要を満たしてくださるということです。

## 2. イエスが 12 弟子を選ばれる。(13-19 節)

ユダヤ人の宗教指導者や律法学者たちはイエスの教えを受け入れませんでした。そこで、イエスはご自身のメッセージを伝える使者たちを任命されました。この場面とイスラエル民族の始まりには類似点があります。どちらも山の上のできごとです。モーセはシナイ山で、イエスの弟子たちはガリラヤ湖近くの丘の上でした。創世記 49 章で 12 部族が呼び寄せられました。ここではイエスが 12 人を召しておられます。

弟子たちは、まずイエスとともにいるために、そして福音を告げ知らせるために任命されました。彼らには、病気を癒し、悪霊を追い出す権威が与えられました。

### 適用

イエスに仕え始める前に、もっとも大切なことはイエスとともに過ごすことです。聖書を毎日読み、みことばに思いをめぐらし、イエスの御声に耳を傾けることがとても大切です。OIC の弟子訓練コースは、イエスとともに過ごす助けとなるよう作られています。このコースは、イエスが弟子たちに教えてくださったすべてのことから恩恵を受けられる内容です。弟子のしるしとなる 21 の特徴について考えるのは、イエスが弟子たちと交わされた会話に参加できるようなものです。私たちがイエスとともに過ごし、みことばを読むのにどれだけの時間を費やすかは、クリスチャンとしての成長に反映されます。

## 3. イエスがユダヤ教から完全に排除される。(22-30 節)

律法学者たちは、イエスが奇跡を起こす力をお持ちであることは否定できません。しかし、イエスの力がどこから来るのかについて疑問を呈しました。イエスの権威を軽んじるために、イエスの奇跡に対する評判を落とそうとしました。それで、イエスの力は悪魔のものだと言いました。

これに対し、イエスは 3 つの方法でお答えになります。

1. イエスは悪霊を追い出しておられるのだから、その力が悪霊によるものであるはずがない。
2. イエスはサタンよりも偉大な力を持っておられる。サタンはイエスに対しては無力である。
3. イエスを排除することについて律法学者たちに警告された。イエスが神である事実を頑なに否定し続けるなら、決して赦されることはありません。

29 節に注目してください。「赦されない」罪という観念は、敏感なクリスチャンを長年にわたって悩ませてきました。

今は天に召されたコリン・ペッカム博士は、かつて、自らの頭に銃を突きつけたことがあります。赦されない罪を犯してしまったかもしれないと考えたからです。そのとき、あるみことばが思い浮かび、引き金を引くのを思いとどまりました。当時、博士はまだ若く、霊的な問題に葛藤していました。

では、28-29 節の警告をどのように理解すればよいのでしょうか。

まず、その前後の文脈を読まなければなりません。イエスはここで、イエスのメッセージを「悪魔からのものだ」と言って受け入れないことについて警告をなされています。これは、具体的な行為です。彼らは、イエスが神の聖霊ではなく悪魔の力によって奇跡を起こしていると非難しました。

そのようなことをする人は、自らの罪が赦されるかについて心配はしていません。罪の赦しを得るのに必要な条件はただひとつです。イエスが人の姿をした神であられると認めることです。そして、イエスがなぜ来られたのかを理解することです。それは、私たちの罪の罰を十字架で背負い、死なれるためです。私たちは、赦しを必要とする罪人であることを自覚しなければなりません。

聖霊がこれらのことを示してくださり、私たちがそれを否定したり拒絶したりするならば、そこに赦しはありません。罪を赦されない人とは、うちなる聖霊の働きを拒絶または否定する人です。罪をお赦しになれるのはイエスだけです。他には誰もいません。イエスが聖霊をとおして働かれるのです。  
ヨハネ 16 : 5-11

16:5 しかし今わたしは、わたしを遣わした方のもとに行こうとしています。しかし、あなたがたのうちには、ひとりとして、どこに行くのですかと尋ねる者がありません。 16:6 かえって、わたしがこれらのことをあなたがたに話したために、あなたがたの心は悲しみでいっぱいになっています。 16:7 しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところへ遣わします。 16:8 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。 16:9 罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。 16:10 また、義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。 16:11 さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。

#### 4.人はイエスとの関係を築けるとイエスはおっしゃり、それは家族の一員になるようなものだと言明なされた。(31-35節)

イエスの母と兄弟たちが、群衆の中でイエスを探していました。それで、誰かがイエスに、「お母さんと兄弟があなたを探しています」と言いました。これに対するイエスの答えはずいぶん奇妙なものでした。イエスは周りにいる人たちを見まわして、近くにいた人に「ご覧なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。」と言いました。そして、「神のみこころを行う人はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。」と説明されました。では、イエスは何を言おうとしておられたのでしょうか。イエスと関係を築くことは、家族関係よりももっと深いものだと言っておられます。つまり、イエスとの関係は、個人の家族関係とは違ったレベルのものであるということです。これを理解するには、クリスチャンになるとは神の家族の一員として新しく生まれることだ、という事実をしっかり認識する必要があります。神は天におられるあなたの父ですから、すべての神の子はあなたの家族となります。クリスチャンになると、神の家族という大家族の一員になるわけです。皆、同じ父がいて、同じ聖霊によってひとつにされます。また、キリストにある同じ立場を得て、信仰の家族に属します。私は、神の家族をいつも感謝しています。過去37年以上、神の家族は私を裁かず愛してくれました。神の家族は私や私の家族のために祈ってくれました。ときには、家族の必要を備えてくれました。直接お会いしたことのない人もいます。よく知るようになって親しくなった人もいます。キリストにある兄弟姉妹とは、血縁関係にある家族よりも深く強い絆で結ばれているのです。それは本当にすばらしい恵みです。クリスチャン家庭に育った人は大きな恵みを得ていますが、霊的な家族とのつながりのほうがさらに大切です。

あなたはイエスとつながっていますか。  
神の家族の一員として新しく生まれていますか。  
神のみことばに従って、みこころをおこなっていますか。

神のみこころとは何でしょう。

その答えは、イエスが神の御子であると信じることです。神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためであると信じることです。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためであると信じることです。

イエスとつながりたいと思うなら、イエスがどのようなお方で何のために来られたかを知る必要があります。

イエスが来られたのは、私たちの罪に対処するためです。

究極の問題は常に罪であり、その答えは常にイエスです。

だから私たちは月に一度「聖餐式」に与るのです。

これが大阪インターナショナルチャーチの働きの中心です。働きの中心であるイエスご自身とイエスをとおして与えられる赦しを忘れないために聖餐式に与ります。

今日皆さんが聖餐式に与るのは、イエスを受け入れて感謝しているからであることを願います。

イエスがあなたの罪のために死なれたことを認めて感謝していますか。

聖餐式に与るのは、感謝を表す行為です。

今日は、「感謝します」とイエスに言う日です。